

三浦外洋セーリングクラブオンライン理事会議事録案

開催日：2020年9月8日（火）18:30～19:48

場 所：Zoom ミーティング

出席者：理 事：庄野、尾山、才藤、飯島、平松、関根、三輪、黒岩、小板橋、
加藤、安藤

監 事：石原

欠席者：理 事：小川、星野、伊藤、坂口、北川、荒嶋、高木

監 事：最川

（敬称略）

尾山理事の進行で、庄野会長より、Zoom ミーティングによる会議開始時点で参加人数が定則を満たしていることから理事会の成立が確認され、会長が議長となり、議事録作成に小板橋理事、議事録署名については加藤理事を指名して、下記議案を審議した。

<審議事項>

庄野会長から、審議事項1. については飯島理事がWEB理事会に参加されてからが良いとの提案があり、審議事項2. から始めることとした。

1. レース計画（小網代カップ、ショートハンドチャレンジ、KFR見通し、来年度のレース方針）
飯島理事から、小網代カップについては、公示の素案を作成してレース開催の方向で進めており、特別なものとしてトランスサガミを参考に「小網代カップ観戦対策規定」を作っている。
また、運営については、地元漁協の協力を得て小網代ヨットクラブ クラブハウスを使用して例年より少人数であたること、無線もみさきヨットがワッチできる等でほぼ問題なしとなっている。なお、オーバーナイトレースであることから、定員数を設けるかについて検討中で結論は出ていないとのことであったが、平松理事から安全上から見て定員を減らすべきではないとのこと意見を頂いた。
ショートハンドチャレンジについては、実施するとの方向であるが、具体的には何も動いていない。なお、三崎側の様子からするとMOSCからはお手伝いはない雰囲気である。
KFRの見通しについては、9月第3週に開催予定のレースは、漁協との話し合いの中で連休中であること等から見送ることとし、10月からの再開が濃厚で調整中である。なお、クラブハウス内で人が滞留しない等対策を講じることとする。
来年度のレース方針については、今現在何も出来ていない状況である。今後、レース委員会等で話し合いを行い、次回理事会で伝えられる様に準備するとのことであった。関根事務局長より、新春レースはエントリーフィーを取らない等、MOSCとして会員に対しての働きかけの

提案があった。

2. 2021ルールブック購入・ルール講習会

三輪理事から、JSAF HPに「ルールブック2021－2024について」が載っており、JSAF会員であれば送料込みで2800円/1冊となっている。従来は加盟団体に一括送付しか道がなかったが、10月25日までに申し込めば個人宛に送付するというアイデアが出ている。またアプリ版が12月以降に1800円で販売されることになる。一括購入で纏めると2600円まで単価を下げるができるので、MOSCとして25冊を纏めて購入する方向とする。

また、ルール講習会については、11月理事会で目途をつけることとすることとなった。

3. 関東四団体忘年会

関根事務局長より、例年恒例の四団体忘年会について、実施か否かの提案があり、10月中頃まで保留にすることとした。なお、10月中旬では遅いとの意見が出たら、メールで連絡して決めることとした。

4. 2021年2月 通常総会のオンライン開催または書面開催

庄野会長から、来年2月の通常総会については、集まっの開催は難しく、Zoomによるオンライン開催、または湘南が実施した書面決議の形態かの意見を聞きたいとの提案があった。開催までに時間もあり会則に違反している事実もないので、書面決議でも、Zoomでも、会場確保の上小人数でのZoomでも良しとすることとなった。

<報告事項>

1. 6/27 JSAF評議員会（評議員改選 飯島氏就任）

尾山理事から、6月27日 JSAF評議員会で評議員改選が行われ、評議員に飯島理事が選任されたとの報告があった。6月から4年間、評議員として就任される。また、安藤理事がシボニアの評議員に就任されたことも報告された。

2. JSAF大学生支援寄付金

庄野会長から、MOSCとしては寄付はしないと決したが、JSAF大村常務理事に確認したところ、1300万円を目標としていたが、1607万5千円が集まり目標を上回ったと聞いている。皆さま方の寄付により賄うことができたことが報告された。

3. トランスサガミ レース報告

飯島理事より、8月23日に恒例のトランスサガミヨットレースが開催されが、今回は石廊崎レースが中止、前夜のパーティ及び表彰式も中止で規模を縮小して開催した。開催にあたり、

MOSCとしてレース実行委員会に問い合わせ等を行い、実行委員会からは2回追加文書が出た等、参加者に対してコロナ対策が周知出来たレースであった。このレースが、今後の開催される外洋レースのお手本となるものと思っている。レース後2週間が経ち、実行委員会から参加者及びスタッフにその後のコロナ確認のメールが来ている。結果については確認が取れていないが、実行委員会としてきちっと対応している。レースは45艇のエントリーがあり、IRCが33艇で30艇が、またORCが14艇（内1艇はスタートせず）が13艇がフィニッシュした。風が上りで弱いとの予測であったため、タイムリミットになるのではと思っていたが、ファーストホームが午後4時5分で、最後が10時のフィニッシュであり、風がない中の予想であったのだが、大島側は良い風が吹いていたために高速なレースとなった。フィニッシュラインをかなり沖に取ったため、次回公示には修正をしたいと考えている。

庄野会長から、コロナ対策の調査結果について、結果が分かった時点で皆さまにお知らせして欲しいとの要望があり、了承された。

下田の受け入れ状況については、それぞれの対応が違うことが報告された。

4. 9/26 外洋団体長・事務局長会議@東京

庄野会長から、春と秋に行われている会長と事務局長の会議については、東京で開催され、キュリアンで予定され、Zoomとの併用で行われることとなっており、庄野会長と関根事務局長が参加する。

5. その他

平松理事から、JSAFの理事会について、9月5日にJSAF理事会があり、前日4日に外洋常任委員会がZoomで開催された。JSAF常任委員会では、会員が減少していることから、春先に会員増強委員会が発足し、会員の増強について議論しているが、外洋系については別途増強委員会を立ち上げることとり、平松理事がチーフとなった。これから具体的に話し合いをしていくこととなっている。

外洋合同会議が、来年2月にベースマネジメント委員会が幹事で横浜で開催されることになっている。Zoom併用も検討している等、報告があった。

JSAFの表彰について、11月13日までにMOSCとして推薦者があれば決定して申請しなければとの依頼があった。

スポーツ団体がバナンスコード制定については、内内で検討しておけば良いこととなっており、直ぐに着手する必要はないとのことであった。

特別加盟団体として、一般社団法人 日本オーシャンレース協会の申請があった。次回の理事会での承認となり、ショートハンドレースの普及、レーサー育成及び支援が目的となっているとのことであった。

ナショナルジャッジとアンパイア規定の改定について、コロナの影響で規定の決まりが守れないことにより緩和改定することなので、直ちに改定されることになる。

公益財団法人日本スポーツ協会が日本スポーツグランプリで、今回 酒吞童子の斎藤実様が

受賞するとのことであった。

J S A F 内で e-saling 委員会が立ち上がり、今後力を入れていこうということで、9 月 26・27 日にアプリのバーチャルインシュアレガッタを使用してジャパンカップを開催し、優勝者は 10 月 11 月のワールドセーリングの e-saling ネイションカップに日本代表として派遣するとのことであった。

定期表彰については、申し込み期限が 11 月 13 日であることから、次の理事会において決めるとのこと、継続審議とする。

次回理事会は、11 月 11 日水曜日に開催する。

以上で本日の議事をすべて終了し、19 時 48 分閉会した。

以 上

2020 年 9 月 日

議事録署名人